

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人琉球大学

1 全体評価

琉球大学は、“Land Grant University”の精神と、真理の探究、地域・国際社会への貢献、平和・共生の追求という基本理念のもと、地域との共生・協働によって、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」を目指すとともに、本学の強みを発揮し、新しい学術領域であるTropical Marine, Medical, and Island Sciences (TIMES : 熱帯島嶼・海洋・医学研究)の国際的な拠点として「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を目指している。第3期中期目標期間においては、地域活性化の中核的拠点となるべく社会変革にシナジーに対応できるイノベティブな大学としての歩みを加速し、異なるものとの協働により、創造活動を生み出し続けるキャンパスの創出等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、金融機関と協働した産学連携活動を推進するとともに地域の課題に応えるための研究活動を展開するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 外部有識者等の研究ニーズに応える研究を実施するため、アドバイザー会議を開催し、琉球島しょの水循環に関連した学際的研究等の新たな研究領域創生に向けた取組を実施している。また、全学的な機器共有体制の構築に向けて、生命科学分野の先端機器の共用化を組織横断的に進めるほか、新たに42台の機器を共用化している。（ユニット「地域に根ざした強み・特色ある研究分野の強化及び横断型プロジェクト研究を基軸にした新展開」に関する取組）
- 高度な医療を提供する診療体制を構築するため、専任の医師2名を配置した「在宅医療推進センター」を新設して在宅医療支援体制を強化するとともに、在宅医療に関する現状を把握するためのアンケート調査を各診療科及び地域の医療機関を対象に行っている。（ユニット「地域完結型医療の充実と国際医療拠点構想に向けた先端医学研究の推進」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 女性研究者のリーダーシップを育むための研修の実施

女性研究者について、グローバルリサーチリーダーに求められる資質の向上や、グローバル化する大学の管理運営に主体的に関わることのできる女性の上位職人材を養成するため、女性研究者を対象に英語によるリーダーシップ研修を実施している。当研修では、リーダーシップを発揮するための交渉力やマネジメント力の向上を図ることを目的として、英語によるディスカッションや参加者個々人への実践的指導が行われ、10名が参加している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学長による直接交渉を通じた同窓生基金の設立

外部資金の獲得に向けて学長によるトップセールスを展開しており、同窓生である岸本正之氏と協議を重ねた結果、同氏が代表を務める岸本ファミリー個人慈善基金により、地球環境保全に向けた教育・研究活動やグローバル人材育成などの支援を目的とした「琉球大学岸本基金」が米国内に創設されている。同基金は、最終的には583万ドル（約7億円）の基金とすることを目指して、今後13年間毎年20～50万ドルを元金に積み増していくものであり、琉球大学では基金の運用益による寄附金を平成29年度以降毎年受け入れることとなっている。

（3）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（4）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等 ④上原キャンパス移転

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 熊本地震で被災した学生に対する無償聴講の提供

熊本地震からの復旧・復興へ向けた取組として、震災により授業料納付が困難となった延べ26名の授業料を免除するとともに、熊本県内の大学に在学する学生で、熊本地震によって沖縄に避難または帰省中の学生が希望する場合に、当該学生が所属する大学の授業が再開されるまでの間、琉球大学における聴講を無償で認める措置を講じており、8名が聴講している。

○ 金融機関と協働した産学連携活動の推進

新商品や新サービス等に関する研究開発並びに新事業・新産業の創出及び地域の振興に係る事業戦略の策定に寄与することを目的とした金融機関との共同事業を12件実施している。また、沖縄地域の産業の振興発展・活性化に資する多様な商品・サービスの開発等によるイノベーション創出のため、連携協定を結んでいる金融機関の顧客企業を対象にニーズ調査アンケート776件を実施し、企業が連携を希望する分野を明らかにするとともに、地域ニーズと研究シーズのマッチングを行い、沖縄県から11件の事業を受託するなど、産業界のニーズ把握を意識した産学連携活動を進めている。

○ 地域の課題に応える研究活動等の展開

沖縄県における健康寿命の延伸を図るため、特に生活習慣病のリスクが高い青壮年世代を対象に、小学校における親子の食育プログラムや地域における健康作りプログラムを通じて健康意識の向上を図る「琉球大学ゆい健康プロジェクト」を実施し、参加者の体重減少を含めた健康指標の改善を実現している。また、沖縄地域において課題となっている子供の貧困問題に対応する取組として、各市町村に設置された「子どもの居場所」において学習支援や芸術活動を支援するための学生50名を派遣するなど、地域の課題に応える活動を展開している。

共同利用・共同研究拠点

○ 熱帯樹木のイソプレングス放出調節機構の解明

熱帯生物圏研究センターでは、より精度の高い環境変動予測や地球温暖化対策につながる成果として、熱帯樹木のイソプレングス放出についての代表的な予測式パラメータを推定する手法を世界に先駆けて開発しており、熱帯樹木におけるイソプレングス放出の温度依存的な調節機構を解明している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 質の高い地域医療人材の養成

沖縄県の地域医療を支える多様な医療人を養成するため、総合臨床研修・教育センターを設置し、専門医や認定看護師等の認定資格取得に向けた教育支援プログラムを実施するとともに、関連研修会への参加を支援している。このほか、医師の地域偏在の解消や医師不足病院の支援に取り組むため、離島・へき地への派遣及び臨床実習等の実態調査を行い、派遣医師数の適正化及び初期臨床研修内容の充実強化を図るなど、質の高い地域医療人材の養成に取り組んでいる。

(診療面)

○ 地域医療及び救急医療の機能向上に向けた取組の実施

地域医療及び救急医療の機能向上に向けて、新たに設置した「在宅医療推進センター」において、各診療科及び地域の医療機関に対して在宅医療の現状把握のためのアンケート調査を実施し、効率的な在宅医療支援体制の構築等を推進するほか、新たに専任の医師2名を増員して救急医療体制を強化するなど、地域の中核医療機関としての機能強化を図っている。

(運営面)

○ ベンチマーク分析を活用した経営改善

国立大学病院管理会計システム（HOMAS2）の活用方法を検討する運用プロジェクトと、沖縄県の医療機能可視化プロジェクトに事務部門の分析担当が参画し、国立大学病院や県内病院と実施したベンチマーク分析等に基づき病院長及び経営企画室長（副病院長）と各診療科との検討会において改善策を検討・実施するなど、ベンチマーク分析を活用した経営改善を推進した結果、平成27年度と比較してDPC（診断群分類包括評価）医療機関別係数が国立大学病院全体で2位の伸び率となる0.0251ポイント（1.4429→1.4680）上昇しているほか、診療稼働額が4億6,700万円増加している。